

【中学校 技術分野】

題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・指導事項アについて、その文末を分野の観点の趣旨に基づき、「～について(を)理解している。」として作成する。</p> <p>知識のみ</p>	<p>・指導事項イについて、その文末を分野の観点の趣旨及び学習過程における各項目の位置づけに基づき「～について①問題を見いだして課題を設定し、②様々な方法等を構想して設計を具体化するとともに、③製作(制作・育成)の過程や結果の評価、改善及び④修正について考えている。」として作成する。</p> <p>◎丸数字は説明のために付けています。</p> <p>①課題の設定 ②解決策の構想 ③実践の評価・改善 ④評価・改善したことを表現</p>	<p>・指導事項ア、イに示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～に向けて、①課題の解決に主体的に取り組んだり、②振り返って改善したりして、③技術を工夫し創造しようとしている」として作成する。</p> <p>◎丸数字は説明のために付けています。</p> <p>①粘り強さ※ ②自らの学習の調整※ ③技術を工夫し創造する態度</p>

・「知識・技能」については、原則、指導事項アについて評価する。

・「思考・判断・表現」については、指導事項イについて評価する。

※①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにむけた粘り強い取組を行おうとする側面。
②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方

過程と基本的な学習活動

1 題材の課題を把握する。
◇題材に関わる技術と生活、社会、環境との関わり気付く。
【題材の課題】(全体)
(題材の目標を達成するための問い)
◇題材の学習の見通しをもつ。

2 基礎的な知識等を身に付ける。
◇題材に関わる技術の見方・考え方に気付く。
◇題材に関わる技術の科学的な原理・法則と仕組みを知る。

3 「製作・制作・育成の課題」を設定する。
◇生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだす。
◇個人で「製作・制作・育成の課題」を設定する。
「製作・制作・育成の課題」(※個人)

4 設計・計画する。
◇設計・計画や製作・制作・育成に必要な知識及び技能を習得する。
◇製作・制作・育成の課題の解決策を構想し、図・計画に表す。
◇試作・試行を通して、構想した解決策を具体化する。
◇製作・制作・育成の作業計画を立てる。

5 解決に向けて製作・制作・育成する
◇構想した解決策及び、作業計画に基づき、製作・制作・育成を行う。

6 成果を評価する。
◇製作・制作・育成の課題の解決結果と解決の過程を、個人及び相互に評価する。

製作・制作・育成の振り返り

7 これからの技術の在り方を考える。
◇つかむ過程で把握した題材の課題について、改めて確認する。
◇社会問題や最新の技術について調べ、優れた点や問題点について、意見を交流する。
◇これからの自分の生活や題材に関わる技術の在り方について考えさせ、発表させる。

題材のまとめ (全体)
題材全体の振り返り(個人)

〈例〉 評価の位置付け		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知技】 知識のみ	【思判表】 ①課題の設定	
単位時間 各単位時間で重点を置く評価の観点とは、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
【知技】 知識及び技能	【思判表】 ②解決策の構想	【主体態】 ①粘り強さ
※単位時間の中で、全ての観点について、評価するということではありません。		
単位時間		
単位時間		
	【思判表】 ③実践の評価・改善	【主体態】 ②自らの学習の調整
単位時間		
	【思判表】 ④評価・改善したことを表現	【主体態】 ③技術を工夫し創造する態度

はばプラⅡに示される「問題解決的な学習」の題材構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記

記録に残す評価については、毎回の授業で、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の全ての観点について行うのではなく、目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。